

東京知道会平成23年第6回幹事会議事録

1. 日時 平成23年12月4日(日) 14:30

2. 場所 サンケイプラザ 3階会議室

3. 議題

- (1) 平成24年度総会「同窓の集い」担当学年(58年卒)からの報告
- (2) 各委員会(企画、組織、財務、会報)からの報告
- (3) 事務所問題特別委員会からの中間報告
- (4) その他

4. 参加者 19名

丹佐迦生(35) 羽持良三(37) 小貫裕文(40) 助川裕(42) 荻野孝野(42) 檜山雅顕(44)
谷田海孝男(46) 門馬俊光(47) 笹島正(54) 保坂賢司(55) 石井健司(56) 小瀧明代
(56) 小澤光浩(57) 鈴木正啓(58) 石井康司(58) 面澤淳市(58) 大塚千裕(58) 宍
倉美恵子(58) 浅野茂生(59)

5. 議事内容

(1) 平成24年度総会「同窓の集い」担当学年(58年卒)からの報告

①10月22日、S58卒12名でサンケイプラザ会場下見。会場担当者の平松氏と顔合わせし、設備・来客動線などを確認した。

②11月19日、水戸の知道会総会・集いに鈴木と石井が参加しPR、水戸のS58卒と意見交換。水戸の知道会総会への平成卒のエントリーは30名。東京の集いでは平成卒参加者の増員を目指す。

③11月20日、西日暮里事務所にてS58卒への集い案内状の発送作業(370名分)および集い備品を確認。

④12月3日、平成卒が集まる忘年会(参加者約50名)にて鈴木が参加し、集い参加をPR。集いへのS58卒の参加申込は、現時点で40名余り。恩師は、現時点で確定7名、他に参加見込2名。また、当日は茨城空港のPRコーナーの設置、物販追加として「がんばっぺ茨城」のシール・バッチの販売を予定している。

なお、今後の作業分担を考えて、副代表幹事を4名に増員。現任の石井康司、面澤淳市に加え大塚千裕、宍倉美恵子が新任。

(2) 各委員会(企画、組織、財務、会報)からの報告

①企画委員会

10月29日、筑波山歩く会を実施。健脚コース14名、楽々コース11名、荷物係2名の計27名が参加。天候にも恵まれ無事終了。今回は震災を考慮し県からの補助を受けなかった。9月のバス旅行の残金からビール類、運搬費、保険代、子供完歩賞、計10,124円支出。11月27日、女子グルメの会をマンダリンホテル東京のレストラン「ケシキ」

で開催。水戸からの参加者2名を加え参加者計11名で盛会だった。春の花見は借楽園観梅の会として3月10日に実施する。知道会本部と合同開催で詳細は打ち合わせ中。

②組織委員会

新名簿管理システムで名簿の整理を継続中。財務委員会が加工したデータに引き続き住所変更等を反映させていく。次回会報で活動内容を報告する。12月3日には平成卒の忘年会に参加した。会合は3か月に1回程度の開催予定で今後も引き続き参加の予定。平成卒も交流の場の要望があるので、今後企画していきたい。

③財務委員会

1. 今年度会費収入状況

(1) 取組み 10月中旬にお願いの文書と振込用紙を315名分発送したほか、学年幹事から協力を依頼

(2) 納付会員数(11月24日時点)は総数416名(前回比+157名、前年比-105名)で、内訳は銀行自動引き落としが181名、郵便振込が167名(前回比+138名)、銀行振込が50名(前回比+19名)など。

(3) 収入状況は2011年会費収入1,248千円、前受金708千円で合計1,956千円(前年比-867千円)

2. 次年度の取組み(1月会報発送時)

今年の反省を踏まえ、ゆうちょ銀行の振込用紙は全員向けに同封。また、振込用紙に住所、氏名、会員番号などの印字を予定。自動引き落としの申込用紙も全員向けに同封する

3. 終身会費納付者

終身会費納付者(1999年~2009年実施)総数452名(うち新会員名簿移行者362名)

4. 財務状況の分析と運営への提言

①支出削減に取り組むも収入も低下し財務は厳しい状況

②90年代よりは改善したが赤字になりやすい状況は変わらず(主な収入源は会費と集い、支出は集い・会報・事務所)

③会費収入は徐々に減少している

④実は終身会員の前受金が下支え(2009年は実納入793人、前受け分222人)

⑤前受期間を終える終身会員が増加、今後は実収入に依存

⑥新規会員を増やさないと明らかに収入減少(若手会員の取り込みが課題)

これらを踏まえ

収支改善のための対策として

①「会員にとってメリットのある経費かどうか」という視点で削減を検討する(会報は紙媒体を望む声も根強く、抜本的なコスト削減は難しい)など支出の削減

②「ふるさと応援募金」のように母校へ向ける目線を明確にする、東京に出てきた若手会員の、大学時代~就職間もない不安な時期を支えるなど「会員にとって魅力ある同窓

会作り」で会員拡大を図るなど収入の拡大策

をはじめ、幅広い視点から多様な提言（具体的には今後各委員会と検討）がなされた。また収支改善のための収入基盤の拡大と長期的な視点の必要性が強調された。

④ 会報委員会

次号第72号は1月20日頃発行予定。先輩訪問はケーズホールディングスの遠藤社長を取材した。前回幹事会からの変更点は①3P下の「事務所問題」は「東京知道会の改革について」として幅広く扱う②6P「母校関連」は進路相談会感想と歩く会自由歩行男女1着に決定③8～9Pの組織委員会活動を1.5P→1Pに、味彩会を0.5P→1P（前回の味彩会＋女子グルメの会）にする。同封物（集い等イベント参加のはがき、会費振込用紙、口座振替希望等）の内容は検討中

（3）事務所問題特別委員会からの報告

事務所の維持費用は年間約125万円。

① 当会の財務状況

会費収入の半分は450名の終身会費（130万円）が支えていたが2009年から終身会費の前受け期間が順次終了、会費の実収入分のみが収入となる。2011年度の決算は約160万円の赤字が見込まれ、次回総会で基本財産の取り崩しを提案することになる。事務所を手放しても2014年には赤字決算となることが想定される。

② 事務所の利用状況と代替施設

事務所の使用頻度は1年間に幹事会、同窓の集い学年幹事会の計12回程度と低く、会員には直接的なメリットが無いにもかかわらず、過大な支出となっている。会報も紙面化の存続を望む声が多く大幅な経費削減は困難。「新名簿管理システム」の完成で事務所での作業が不要となった。代替施設の貸会議室、貸し倉庫などで十分対応は可能である。

③ 事務所関係の過去の経緯

自前の事務所を設置するために1988年6月から3年半、募金活動が行われたが目標金額には達せず、現在まで基本財産として保持している。この間、会の財政状況は逼迫し1992年総会で「年会費の増収と経費の節約に努力の上、やむ得ざる場合は、基本資産の一般会計への支出を可とする」との基本財産基金運用規程が承認され、2003年総会では664万円の取り崩しが決議された。1992年、同窓会事務所として事務機能、会議場機能を備えた事務所の設置を提案がなされ、翌93年、現在の西日暮里事務所がオープン。2002年には、自己不動産の取得は賃貸より安くないという最終的結論に達し、引き続き基本財産は会運営のため基金として持つことになった。次回、1月の第3回会合でメンバーの意見を取りまとめ、2月に会として答申する予定である。

以上

※次回幹事会は、2月2日(木) 18時半から西日暮里事務所にて開催

